

麻生区区民会議 第6回 市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年5月19日（火）午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所：麻生区役所第5会議室
- 3 出席者：[専門部会委員]
岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、高倉委員、林委員、宮本委員
(欠席) 横田委員
[事務局] 井上企画課長、白石、麻生 [コンサルタント] 中島
- 4 傍聴者 0名
- 5 連絡事項
 - (1) 各種連絡事項について
・前回会議で要望のあった「麻生区協働のまちづくりに関わる地域活動団体一覧」について事務局より説明。
 - (2) 前回会議の振り返り
前回の会議についてコンサルタントより説明。

6 議事

コンサルタントより、前回までの意見を整理すると、ボランティアの段階は5つのステップで表現されるが、どの部分を中心に審議するのか、検討の必要がある旨、投げかけ。

ステップ1：ボランティア活動に関心を持つが、内に籠っている段階

ステップ2：講座、体験学習、妻に背中を押されて等、なんらかのきっかけで一步を踏み出してみる段階

ステップ3：活動のプレイヤーとなり、仲間や居場所もでき、活動が楽しいと感じる段階

ステップ4：何をやりたいのか心から湧きあがるものに関心を持ち、自発的な心が芽生える段階

ステップ5：活動のマネジメントやリーダーとなり、同じ意識を持った仲間を集めていく段階

(これからの審議について)

部会長より、「一般の方がボランティア活動に関する情報を探することができるか」という視点で、麻生区のボランティア活動に関する情報環境を調査してみたところ、形態がボランティアの募集であっても「受講生」「サポーター」の名称で募集している事例もあり、多くの区民にとって希望するボランティア活動が見つけにくいという課題が出てきた旨、説明。

また、国が行った調査を例に挙げると、ボランティアに少しでも関心を持った人が約62%もいるにもかかわらず、過去3年間にボランティア活動経験がある人は約26%しかないという結果やボランティア活動の参加の妨げとして複数の要因（十分な情報がない、参加の手続きが分かりにくい、信頼性に欠けるといった点）が挙げられている旨、説明。

その上で、今までの審議の流れからも、ステップ1から2に係る部分について焦点を当て、「多くの区民が気軽にボランティア活動に参加できる仕組み」を検討することに論点を立て、これからは検討したらどうか、との提案あり。

- ・シニア世代の参加等を踏まえると、ステップ2に焦点をあてることに同意したい。ステップ3から5にかけての部分は個人の性格によるところが大きいのではないかと。

- ・先日、新しく町会長になられた方の話を聞いたところ、妻から手を挙げるよう促され、立候補したとのこと。外に出たい、何かを発見していきたいと思っている人は区内に多いのではないかと。
 - ・区民へボランティアに参加できる情報を更に出してほしいと思っている。
 - ・ボランティアを募集している団体とボランティアをしたい人をマッチングするイベントなどが有効か。
 - ・団体が集まってボランティアフェスタの開催という形になるのか。
 - ・似た事業を麻生区社会福祉協議会は夏に実施している。初めてボランティア活動に参加する人を対象に講座を開き、講座後はボランティア体験につなげている。
 - ・ただ人間の数でマッチングしても意味がない。技術のない人は技術を要するボランティア活動には参加できない。需給バランスが崩れ、ミスマッチが生じる。
 - ・体験講座を通じて学びながら、合う、合わないを決める方法がよい。デスクワークのみでは活動はわからない。
 - ・団体自体の信頼性も参加する上の障壁となっている。行政の名前が入ると信頼性が高まり、担当の裁量にもよるが市民館に募集チラシを置けるなどのメリットもある。
 - ・団体を見極める仕組みができないか。いまのところ、行政との協働事業（共催・後援）などが一つの目安となっているようであるが。
 - ・各団体の個別的な話となるが、同じメンバーで固まっている団体は入りづらい。若い人、新しい人も意見を出しやすい団体がよい。
 - ・外へ出るきっかけとして、妻が夫を引っ張り出すこともそうであるが、人が人を誘って連れてくる仕組みが必要。夫一人では外へ出ない。スポーツセンターにもいかないのではないかと。
 - ・男性はナイーブなので仲間がいないと出てこない。
- ⇒ステップ2に係る部分を中心に、今後審議を進めていく旨、確認した。

(ステップ2の具体的議論について)

- ・信頼性の話に戻るが、やまゆりでは利用登録団体について、登録にあたっての条件などがあるのか。登録がある程度の信頼性を担保することになるのでは。
 - ・やまゆりは営業活動や政治・宗教活動の禁止など一般的な事項を定めている。
 - ・団体への講座申し込みにあたって宗教や政治団体等が絡んでいるのではないかと不安になる人も区民の中にはいる。
 - ・情報を与え、参加者の信頼感を高めることが必要。
 - ・ただ、ホームページによる情報提供では実態は分からない。活動が忙しくなるとホームページの更新が難しくなる。一方で、ホームページが充実しているのに活動事体は形骸化している団体もある。
 - ・ボランティアの需給関係のマッチングの課題については、どの会議でも必要とのこと意見は一致する。問題は誰がどこでやるか。地域人材育成会議の審議と密接に絡んだ問題であるが、肝心の会議が今年度まだ開催されていないので何とも言えない。また、「誰が」という点で、行政職員ではなく、区民が地域プロデューサーを担う事が重要。行政職員は3年で異動でいなくなる。
 - ・公費で行う様々な講座には、ボランティア（活動の担い手）を増やすという目的があると思うが。
 - ・仲間づくりへ移行という点では、ある程度の講座の回数が必要である。フォローも大切。
 - ・区民会議から提案された里山ボランティアは、運営側、緑地保全活動の担い手の2つのパターンでボランティアが継続する。千代ヶ丘町会など運営を地元が引き継いでいる事例もある。
 - ・かわさき市民活動支援センターには、ボランティアを集めるノウハウを持っていると思うが。
 - ・やまゆりは、ボランティア関係の事業について、かわさき市民活動支援センターの真似をしている。一方で支援センターもやまゆりの事業を参考にしており、相互に協力の関係を保っている。「区民講師」は麻生区独自の制度。
 - ・ボランティアをしたい人に情報が届くよう、自分たちで発信の仕方やルートを考える必要がある。情報発信という面では行政の手から離れた方がよい。
 - ・区民主導の情報発信の話となると、やまゆりの設立経緯から話をする必要がある。
 - ・ボランティア活動に対する関心や妨げとなる要因について全国の結果は出ているが、区ではどうか。アンケート調査をして実態を把握してみてもどうか。麻生区としての特徴が浮かび上がってくるのでは。
- ・次回の区民会議全体会議について、資料（叩き台）を確認。修正の上、企画部会に提出する旨確認した。